

野沢温泉村への学生派遣プログラム 2014

東京・明治大学での事前学習

派遣学生への事前説明会及びグループワーク（6月13日）

今年度のプログラムに参加する学生が初めて一堂に会しての第1回目のガイダンスです。当日は、野沢温泉村から担当職員をお招きしており、源由理子地域連携推進センター長からプログラムの趣旨について説明がなされた後、学生たちは、野沢温泉村の特長・課題点等についてのレクチャーを受けました。

レクチャー終了後には、学生たちはグループワークを開始。6月下旬に控える事前調査に向け、興味を持ったことや現地で確認すべきことについて賑やかに意見を交わしました。



事前調査

6月21日及び22日、野沢温泉村での事前調査を実施しました。この1泊2日での「事前調査」は、野沢温泉村が抱える課題や資源等について現地を訪れることで体感し、新たな発見を得ることを目的としています。

野沢温泉村周辺観光地視察（6月21日）

新幹線で長野駅に到着した一行は、まずは善光寺を視察。県内のターミナル駅周辺での観光産業の状況、人の流れを確認しました。その後、マイクロバスにて小布施町へ移動。小さな町でありながら多くの観光客を呼び込むことになった「まちづくり」の方式をその街並みから学びます。



村内視察（6月21日・22日）

小布施町を発った後、いよいよ野沢温泉村に到着。村の中心産業であるスキーについて、その歴史を展示する日本スキー博物館、1998年開催の長野オリンピックで「バイアスロン」の競技会場となったふれ愛の森公園を視察しました。

この日は、野沢温泉村の春の味覚「根曲がり竹の竹の子」を提供する屋台村が村内温泉街に登場する「たけのこまつり」も開催されており、学生たちはこれを視察するとともに、野沢温泉村の外湯も体感するなど、野沢温泉村の資源に大いに触れることとなりました。宿舎では、1日目の行程を経てグループワークを実施。それぞれの発見や興味を共有し、翌日の行程に向けて準備を行いました。

2日目となる22日は、毎日曜日に開催されている「朝市」を早朝から視察。村民や旅行者で賑わう温泉街を歩きました。その後、村役場に移動し富井俊雄村長からプログラムに参加する学生たちに対しての激励の言葉をいただきました。その後はグループに分かれての村内視察を実施。各グループには、野沢温泉村若手職員

がアドバイザーとしてサポートに入り、その案内のもと、村内全域を巡りました。

事前調査での発見を踏まえ、学生たちは野沢温泉村に対する政策提言の考案を開始します。9月上旬には再度、野沢温泉村を訪問し、現地の人々へのインタビューを行う調査活動を行います。



東京・明治大学での研修

著作権研修・ファシリテーション研修（8月1日・2日）

学生派遣プログラムでは、現地の自治体職員、地場産業に携わる人々など地域住民との交流・調査・取材を通し「地域活性化への提言」を行います。学生たちは前期末試験が終了後息をつく暇もなく、夏期休暇が開始すると同時に、東京・明治大学において、調査活動等で必要となる知識・手法等を身に付けるための研修会を実施しました。

まず、今村哲也情報コミュニケーション学部准教授による著作権研修では、現地調査終了後に取り組む成果報告書作成に必要な基本的な著作権に関する知識について学習しました。これは、調査・取材活動に協力していただき収集した参考資料や写真等の著作権や肖像権等について、参加学生自身が自覚し、適切な対応を取ることができるように導入した研修です。源由理子グローバル・ガバナンス研究科教授を講師に行った*ファシリテーション研修では、9月上旬のフィールドワークに向け、議論の進め方やコミュニケーションの取り方などについて、ワークショップを交えて学びました。

また、8月1日には、再び野沢温泉村から担当職員をお招きし、学生たちは事前調査を経て考案した政策提言案を発表しました。学生たちの発表内容に対しては、現地で暮らし、住民や経済、政策について日々思考をめぐらす行政職員ならではの指摘が為されました。提言案の中には、既に行政で実践されているものもあり、学生たちは改めて調査の必要性とともに、自治体が抱える課題解決の難しさを痛感していました。担当職員から頂戴したアドバイスを参考に、学生たちは9月上旬の現地調査に向けて、政策提言案の更なる向上に努めます。

*「ファシリテーション」とは、
ものごとが円滑に進行するよう促す行為・技術・方法。会議等のマネジメント技法として用いられる。





※著作権研修及びファシリテーション研修は、「創立者出身地への学生派遣プログラム 2014」と合同実施。

出発直前ガイダンス（9月1日）

前回の研修（ガイダンス）から1ヶ月が経過し、各グループの政策提言案の共有を行いました。本プログラムの引率を行う小池保夫政治経済学部教授及び木谷光宏政治経済学部教授からは、調査を行うに際してのポイントや政策提言案に対しての指摘が為されました。翌週からは、いよいよ現地調査が始まります。



現地調査

9月8日～11日、野沢温泉村への学生派遣プログラム現地調査を実施しました。この3泊4日での「現地調査」は、6月下旬に行った事前調査や東京でのグループワークを経て発見した野沢温泉村の抱える課題について、現地での調査活動を行い、政策提言内容を深化・充実させるために実施します。

村内視察（9月8日）

初日となる9月8日は、野沢温泉村で毎年行われる「燈籠祭り」が行われました。野沢温泉村の自治組織である「野沢組」が執り行うこのお祭りは、野沢温泉村内にある湯澤神社の祭礼であり、猿田彦命の舞や子供が扮した三十六歌仙の行列が村を深夜まで村内を練り歩くなど、野沢温泉村が最も活気づく日のひとつとなっています。野沢温泉村に古くから根付くこの行事を見学することで、学生たちは野沢温泉村の現状についてより理解するとともに、スキーシーズン以外にも観光客を集め得る野沢温泉村が有する資源の存在を体感しました。



現地での取材及びグループワーク（9月9日・10日）

2日目・3日目はグループ毎に分かれての調査活動です。それぞれが考案しようとする政策提言に則し、学生たちは野沢温泉村若手職員のみなさんの協力も得ながら、民宿や村役場、食品工場などを選定の上、訪問しました。宿舎では連日深夜までグループワークが続きま



中間報告会 (9月11日)

中間報告会の会場となる野沢温泉村役場にて、富井村長以下20名以上の野沢温泉村職員のご出席のもと、学生たちは考案した野沢温泉村に対する政策提言を発表しました。発表後には、富井村長から更なる政策提言の磨き上げへの期待を込めた叱咤激励をいただき、学生たちは成果報告会に向けて一層の気合が入りました。



成果報告会

野沢温泉村での最終成果報告会 (10月31日)

9月上旬の現地調査から約1ヶ月半の期間をかけ、学生たちは政策提言内容の向上に取り組んできました。その成果を、各グループの代表者が再び野沢温泉村を訪問し、お世話になった職員のみなさんの前で発表しました。6月に始まったプログラムの集大成となる発表を受け、富井村長からは学生ならではの視点の有用性についてお言葉を賜りました。



富井俊雄村長をはじめ野沢温泉村職員のみなさん、取材に快く応じてくださったみなさん、熱いご支援ご協力いただき、誠にありがとうございました！